

働き方改革推進モデル校の取組

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

白井市立桜台小学校の実践

会議の精選・スリム化



PCデータを活用した職員会議や打合せ

定例会議は、各月1回の企画会議、職員会議のみ。打合せは週2回。紙媒体の資料は、極力配付しない。



隙間時間で、自主的に集まって相談

写真のような様子が、校内で頻繁に見られる。何気ない会話の中にヒントがあり、会議に向けた打合せ時間の短縮につながっている。

職員の意識向上



無理のないノー残業デーやアンケートの実施

月1回のノー残業デーに向け、職員室掲示で事前に周知し、各自が働き方を調整。また、日頃から、各自が退勤時刻を意識し、やるべきことをリスト化するなどして、仕事を調整。働き方改革に関するアンケートでは、教材研究の方法等のアイデアを集約した。

風通しのよい職場づくり



全職員での活動の場づくりを積極的に

ケーブルテレビから撮影依頼のあったメッセージビデオに全員出演するなど、積極的に場づくりを行い、気軽に会話できる雰囲気づくりに努めている。

成果

以上の取組を行う中で、職員の意識が高まり、働き方が変わってきた。心身ともに余裕があると、落ち着いた学級経営ができ、結果として児童の満足度が上がり、信頼される学校につながるということが感じられるようになった。また、職場全体の意識の向上と、気軽に相談や提案ができる温かな雰囲気があったこそ、仕組みと相まって働き方改革が進むということが分かった。

働き方改革推進モデル校の取組

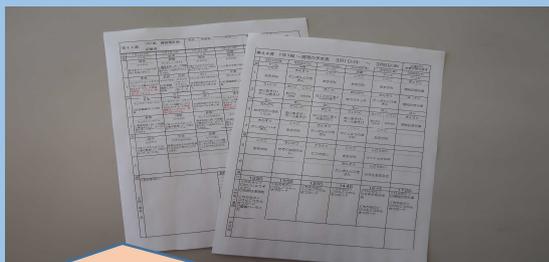
～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

成田市立桜田小学校の実践

業務の効率化

IT化の推進

- ・校長のリーダーシップの下、学校独自のIT化を推進。
- ・週計画、学級通信との連動システムの構築
- ・週指導計画、反省欄の削除、必要に応じて備考欄に記入。



週予定を打ち込むとお知らせに反映、同時に出来上がり

部活動への取組改革

- ・時間が確保できれば部活を行うのが当たり前というこれまでの習慣、考え方の改善。
- ・放課後の練習カット、始業前の練習に集中。放課後の時間の確保。

職員の意識改革

勤務時間を意識・早く帰ることの習慣化

- ・17:00には帰るという雰囲気醸成。
- ・早く帰ることはよいことという意識。
- ・見通しをもった仕事計画。

職員1 自分時間の充実、スポーツでリフレッシュ
学校でも元気いっぱい、先生になってよかった！

職員2 家族との時間が増え、心身ともに余裕が生まれた。
仕事も充実。忙しい時も笑顔で対応！

管理職から
帰ってみませんか、帰る勇気も大切。余裕ができると
仕事の効率アップ 学級経営の充実につながります。

報・連・相、その場で解決

放課後は職員室で仕事

- ・悩みや疑問はすぐに相談。管理職、誰かがすぐに相談に乗ってくれる。
- ・保護者にも先手を打って即連絡。保護者との信頼関係の構築につながる。

風通しのよい職場環境

成果

・放課後の時間が確保されたことで、職員室内で話ができ、結果的に共通理解ができ、職員全員が方向性を同くして仕事に取り組めるようになった。

・自分の時間、家族との時間が増えたことで余裕が生まれ、ゆとりをもって落ち着いて、児童や保護者と対応することができるようになった。学校への信頼につながる。

平均退勤時刻 令和元年度 18:10 → 令和2年度 17:45

月45時間超在籍人数 令和元年度 7名 → 令和2年度 1名

働き方改革推進モデル校の取組

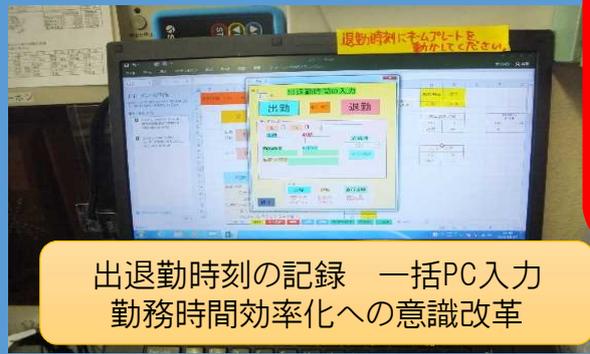
～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

四街道市立四街道中学校の実践

勤務時間の意識改革



見える化
退勤目標時刻を申告する



出退勤時刻の記録 一括PC入力
勤務時間効率化への意識改革

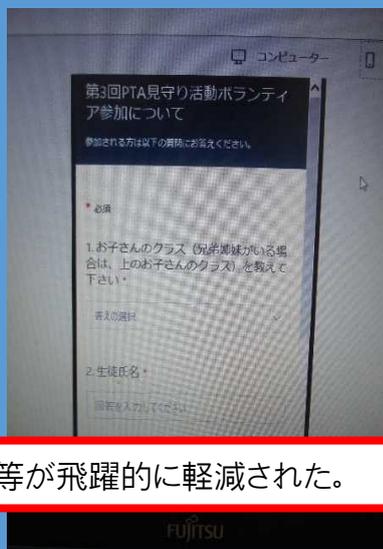
退勤目標申告は、お互いの退勤時間を意識することで同じ時間帯に帰る職員が声をかけ合い遠慮せずに退勤する雰囲気につながった。

ICT活用

校務支援システムの活用
事務処理の軽減

生徒アンケート
マークシートを使用

保護者アンケート
集計ソフトで集約



ICT活用により、集計作業等が飛躍的に軽減された。

校務の効率化

徴収金等取扱いマニュアルの見直し
会計担当負担軽減

会議の見直し
会議資料のデータ化

学年・学級経営案を廃止
目標申告シートを活用

留守番電話の導入

部活動改革

活動時間の短縮
年間500時間 週13時間
朝練習は週2日(木・金)

スポーツアドバイザーによる研修
科学的な根拠によるトレーニング方法

様々な取組により職員の意識に変容が見られた

【参考】令和元年度と令和2年度の比較
☆正規勤務時間月80時間超過人数2名減
☆最早出勤時刻7分遅
☆最遅退勤時刻8分早

働き方改革推進モデル校の取組

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

佐倉市立西志津中学校の実践

<働き方改革の基本理念>

『学校が落ち着いていることが一番の働き方改革』 by 高梨校長



『生徒の自己肯定感の向上を図るための取組』

- ①授業の充実（わかる・できる・授業が楽しい）
UDの視点、生徒指導の機能を生かした授業
- ②生徒の自治的活動の充実
- ③生徒の居場所づくり
部活動の充実、不登校対策の充実

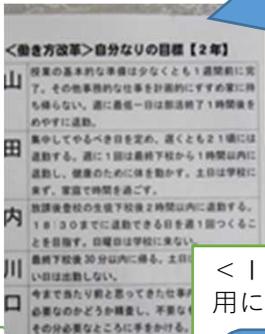
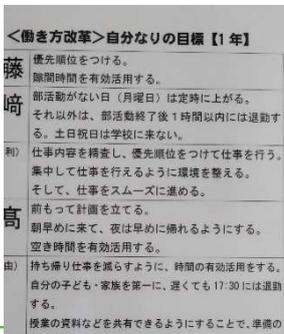
- ◆イレギュラーな時間の減少
- ◆見通しのある業務の遂行
- ◆風通しの良い職場環境の構築

を通して、教職員の負担の軽減と勤務時間の短縮化が図られるようになった。



- ◎授業の充実を図るための時間の確保
- ◎生徒と向き合う時間の確保

<働き方改革の意識の向上>

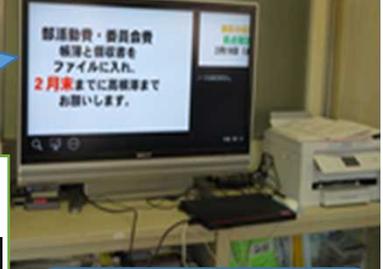


一人一人の働き方改革に向けた目標をまとめ、職員室に掲示しています。

<見通しのある業務改善へのサポート>

提出物のぐちゃぐちゃ共有情報が視覚的に確認できます。スライド形式で常時映し出されています。

「情報モニター」職員室中央壁際に配置され、必要な人がいつでも入力できます。



<ICT機器、マチコミメールの活用による事務処理の軽減>

生徒の授業評価は、タブレットで入力。保護者会の出欠は、マチコミメールで確認。



プリンターを中心に4つのブロックで座席が配置されています（事務さんの発案）。いわゆる『ひな壇』がない開かれた職員室の雰囲気になっています。



退勤時間になると職員室に『蛍の光』が流れます。

成果

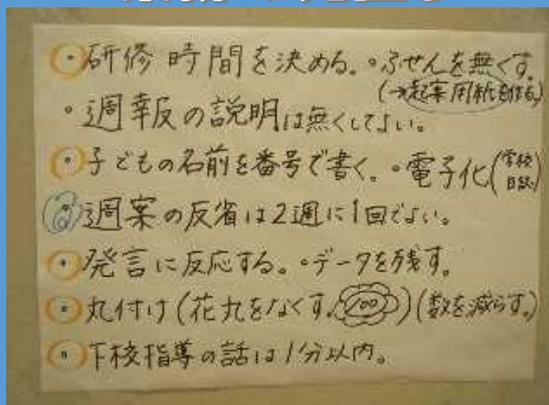
- ・「授業で勝負！」の学校づくりを通して、落ち着いた学校となり生徒指導案件が減少した。
- ・ICTを積極的に活用することで事務処理（調査、集計、成績処理等）に係る時間を大幅に軽減することができた。
- ・昨年度に比べて平均退勤時刻が17分、最も遅い退勤時間が33分早くなった。
- ・コロナ禍対応を契機として教育課程の編成の見直し、行事やその他業務の精選を実施し、更なる業務改善を推進する。

働き方改革推進モデル校の取組

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

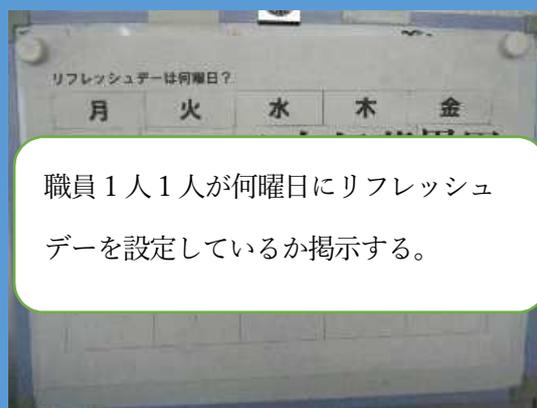
神崎町立神崎小学校の実践

業務の見直し



モラールアップ研修『働き方改革について』

リフレッシュデーの設定



『リフレッシュデー表』

取組内容の紹介

研修での話合いで意識を高める

- ・モラールアップ研修で「働き方改革」についてとりあげ、業務の見直しや工夫・改善について話し合った。
- ・話し合った内容をA3用紙にまとめ、発表し、すぐにできそうなものに取り組むことにした。

定時退勤日を設定する

- ・各自で1週間のうち1日の『リフレッシュデー』を設定する。
- ・リフレッシュデー表にネームプレートを貼り、その日は定時退勤する。

成果

- ・職員からたくさんの業務改善のアイデアが集まり、「働き方改革」への意識が高まった。
アイデア例 ・「簡易起案書」の活用 ・学級通信の回数を減らす
・職員会議資料表紙に提案時間を表示 など
- ・リフレッシュデーを各個人で設定することで取組率が高まった。
- ・月45時間超勤務 令和元年度 6名 → 令和2年度 0名

働き方改革推進モデル校の取組

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

東庄町立東庄中学校の実践

部活動指導の工夫

部活動の朝練習	
曜日	運動場
火曜日	1人の職員だけに負担が偏らないようにローテーションを組んで指導に当たっている。
水曜日	
木曜日	
金曜日	
土曜日	

部活動の放課後練習										
曜日	陸上	野球	サッカー	テニス	バスケ	バレー	卓球	柔剣道	吹奏楽	美術・手工芸
火曜日	1人の職員だけに負担が偏らないようにローテーションを組んで指導に当たっている。									
水曜日										
木曜日										
金曜日										
土曜日										

『部活動配置ローテーション表』

部活動外部指導者の配置



陸上競技部での指導

取組内容の紹介

部活動顧問の配置の工夫

- ・部活動の顧問の配置を、朝・放課後ともにローテーション化した。
- ・全ての顧問が毎日指導するのではなく、指導しない日をつくり、他の業務の時間を確保した。ただし、顧問が指導したい場合はこの限りではない。

部活動外部指導者の活用

- ・顧問を1人しか配置できなかったり、未経験であったりする部活動で、外部指導者の積極的な活用を図っている。
- ・令和2年度は、陸上競技部、柔道部で活用した。

成果

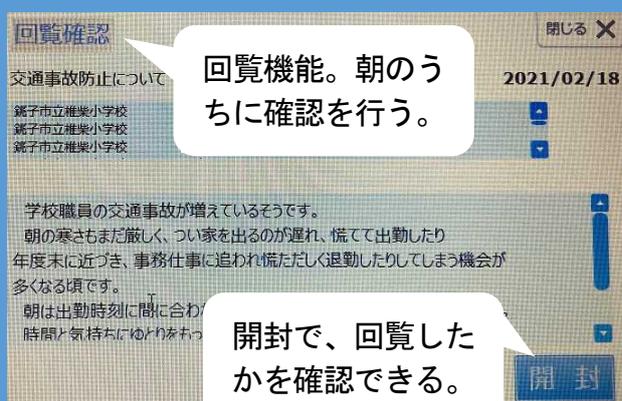
- ・学校全体で取り組むことで、業務改善の意識が高まった。
- ・教材研究の時間が増え、授業内容の充実につながった。
- ・気になる生徒との面談や補習の時間が確保できるようになった。
- ・外部指導者の活用で技術面の指導の負担が減り、精神的に楽になった。
- ・月80時間超勤務 令和元年度 7名 → 令和2年度 0名

働き方改革推進モデル校の取組

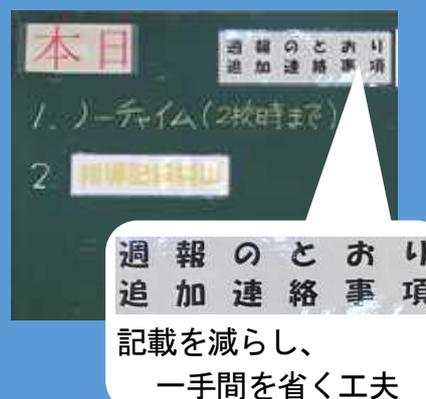
～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

銚子市立椎柴小学校の実践

校務支援システムの活用



小さなことからコツコツと



☆校長の基本方針の明確化

- ・「働き方改革」を経営の柱として、年度当初に明確に宣言し、徹底していく。小規模校のメリットを最大限に生かし、学校の実態に合った取組を行っている。
- ・早く帰ることにより、先生方の健康が保たれ、仕事にも良い影響が出る。早く帰ることのメリットがあることを周知する。管理職が率先して、手本となるようにする。

☆具体的な取組

- ・ 8:10に1時間目を開始、業間休みの時間を短縮する(減らした分は、水曜日の昼休みを長くする。)ことで、毎日15:05に児童下校完了。 → **事務処理の時間確保**
- ・ 朝の打合せはなし。軽微な連絡事項は、校務用パソコンの「閲覧」機能で連絡。(写真左) → **授業開始時間を早める**
- ・ 木曜日の16:20に帰り支度をして集合し、打合せを行い、そのまま退勤。 → **ノー残業デー**
- ・ 学年だよりの廃止。月予定は全校統一のものを配布。学校の様子については、「マチコミ」のタイムラインを活用。 → **業務改善**
- ・ 家庭訪問を「帰宅先確認」とし、希望者には直接挨拶をすることとする。 → **業務改善**
- ・ その他、黒板の記載(写真右)、週指導記録簿の様式変更、復命書の作成方法の工夫、職員会議の協議内容の精選など、小さな事でも改革できることは積極的に変えている。

成果

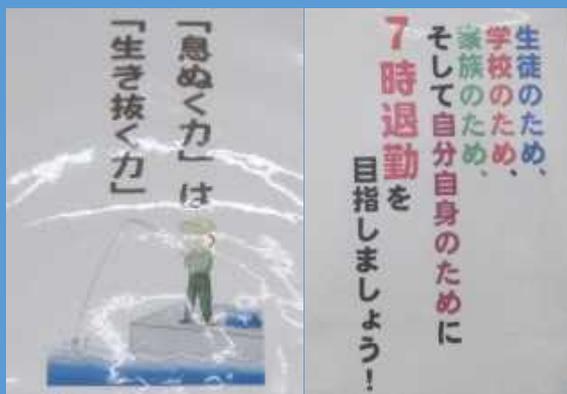
- ・ 令和2年度(11月)の平均退勤時刻は17時27分と前年度より41分短縮した。また、時間外在校等時間が45時間を超える職員の人数は0となった。
- ・ 職員の意識が高まり、協力体制が構築され、一人一人の負担を減らすことができた。

働き方改革推進モデル校の取組

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

匝瑳市立野栄中学校の実践

職員の意識改革！！



勤務時間の把握も簡単に



明確な目標設定による、意識改革

☆目標① 「19時退勤」

- ・ ICカードによる勤務時間管理。エクセルを使用して勤務時間分析を行う。
- ・ 職員会議資料配付はデータで行い、パソコンを開いて会議を実施する。
- ・ 通知表の所見は3学期のみとする。
- ・ 週指導記録簿をパソコン上で入力する。
- ・ 家庭訪問なし。交通指導等と兼ねて自宅確認を実施。

ムダを省いて
効果的に！

☆目標② 「計画年休取得」

- ・ 年休は、本来リフレッシュなど自由に取得できる休暇であることを意識する。その上で、月1回1時間でもいいからリフレッシュのために計画的な年休の取得を促進する。

楽しくやろう！！
先生方が楽しければ
生徒も楽しい！！

成果

- ・ 令和2年度(11月)の平均退勤時刻は17時23分。前年度から73分短縮した。
- ・ 職員同士の仲がとてよく、授業の空いている先生がどんどん他の授業に入って、全員で生徒を見る雰囲気がある。また、若手もベテランも関係なく気付いたことをどんどん言い合い、互いの力を高めている。その結果、年々、生徒も落ち着いてきている。